

## 今週（8月10日から8月13日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの最終週となった。無担保コールO/N物は、オファーサイドの資金量が減少傾向にある中、地銀を中心にビッドサイドの着地に向けた調達ニーズは根強く、先週末の4日積みで上昇した流れを引き継ぎ、週の後半ではさらに高い水準での出会いが見られた。無担保コールO/N物加重平均レートは日を追うごとに上昇していった。13日は実質的な積みの最終日となり、地銀勢を中心に取り上がる動きが引き続き見られた。日銀当座預金残高は520兆円台後半からはほぼ横ばいで推移し、13日は年金定時払いを受け、530兆円台後半まで増加した。ターム物についてはショートターム物での引き合いが中心となり、新積み期となる8月16日スタートのターム物の出会いも数件見られた。

### ●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.09～▲0.065%出会いと先週並みのレンジで推移した。週初2日のT/Nは積み終盤が意識される中、投資家の資金調達ニーズが旺盛だったことから、▲0.075～▲0.065%出会いと先週比で上昇した。翌12日には、積み最終日にあたることから投資家の資金調達ニーズが減退し、▲0.085～▲0.07%出会いとレートを下げる展開となった。13日のT/Nは新積み期に入り、オファーサイドの一部投資家が様子見姿勢に転じる中、ビッドサイドの資金運用意欲が復活し、▲0.095～▲0.085%出会いとレートは低下した。

SCについては、2y418～427、5y140～148、10y349～362、20y174～177、30y70～71、40y13～14 など、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、特段の材料もなく動意に乏しい中、散発的に出会いが見られるだけの閑散なマーケットとなった。

11日に行われた短国買入オペは、7,500億円と前回（5,000億円）からオファー額が増額される中、無難な結果となった。

13日に実施された3M物の入札は強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、ショートカバーの動きもあつて強含んで推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は夏季休暇中の発行体が多かったことから、週を通して1日あたりの入札案件が数件にとどまっていたが、一部の輸送機器業態において超大型発行が行われたことで、週間発行・償還総額は共に4,500億円程度と概ね横ばいであった。市場残高は16日時点では25兆円半ばまで積み上がる見通しとなっている。引き続き新型コロナオペの担保需要から投資家側による積極的な買いが見られ、発行残高の少ない銘柄はかなり深いマイナスでの発行も見られている。

13日にはCP等買入オペが5,000億円で実施された。発行レートは超低水準が続いており、夏季休暇の時期であることから発行案件は少ないものの、在庫の入替ニーズは底堅く、入札結果は平均落札レート▲0.011%・按分レート▲0.013%と、前回比（平均▲0.009%・按分▲0.013%）で平均レートは若干低下したが、按分レートは横ばいとなった。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/9 (月)						
8/10 (火)	27,888.15	0.020	110.33	△ 0.028	△ 0.075	5,288,900
8/11 (水)	28,070.51	0.035	110.67	△ 0.026	△ 0.072	5,288,300
8/12 (木)	28,015.02	0.020	110.35	△ 0.020	△ 0.075	5,286,900
8/13 (金)	27,977.15	0.020	110.45	△ 0.017	△ 0.089	5,374,400

## 来週（8月16日から8月20日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
8/16 (月)	4-6月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)			
8/17 (火)	6月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)			6月の米企業在庫 7月の米小売売上高 7月の米鉱工業生産・設備稼働率 4-6月期のユーロ圏GDP2次速報
8/18 (水)	6月の機械受注統計(内閣府 8:50) 7月の貿易統計(財務省 8:50)			7月の米住宅着工件数 7月の英消費者物価指数 7月のユーロ圏消費者物価指数改定値
8/19 (木)	6月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 8/20発行	流動性供給 5,000億円 8/20発行	
8/20 (金)	7月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 50,000億円 8/23発行	交付税借入 11,000億円 8/31借入	

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/16 (月)	600	7,600	8,200	CP買入 国債補完	▲ 200 200		0	8,200	TB3M発行▲50000償還64800 流動性供給▲5000 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲2000 個人向け3・5Y償還800
8/17 (火)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
8/18 (水)	0	1,000	1,000	全店共通 CP買入	▲ 4,000	5,000	1,000	2,000	
8/19 (木)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
8/20 (金)	0	▲ 22,000	▲ 22,000				0	▲ 22,000	TB1Y発行▲35000償還15500 流動性供給▲5000 交付税借入▲11000期日10500 エネルギー借入▲6500期日7000
週間合計	600	▲ 15,400	▲ 14,800	—	▲ 4,000	5,000	1,000	▲ 13,800	

8/16は日銀予想、8/17以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新積み期を迎え、序盤はレート水準が低下すると考えられるが、その後は徐々に上昇すると予想される。レポ市場は、GC T/Nは、ビッドサイド投資家の資金運用ニーズの高まりが続く可能性もあることから、▲0.10～▲0.085%程度での推移が予想される。短国市場は、19日に1Y物、20日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、17日に実施が予想される短国買入オペのオフアー額にも注目したい。CP市場は、特段のイベントは無い。事業法人の夏季休暇が明け、期越え物を含めてどれだけ発行案件が膨らむかが注目される。

主要なイベントは、国内では16日に4-6月期のGDP1次速報、20日に7月の全国CPI、海外では17日に4-6月期のユーロ圏GDP2次速報、18日に7月の英国CPIの公表等が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。